



大楠奉納集 古楽



△5
6890
75

春

秋

日

行枝々々春風の吹や梅の花
 亦馬の蹄一りりし梅も花
 中居の花一葉は春の風
 松一葉の影の里にや春の月
 。
 春の風を待つや春の風を待つ
 秋の風を待つや秋の風を待つ

田

重

を

水

田の原の枝の葉のよしの葉の葉。

。ほろりの葉の葉の葉の葉の葉。

。ほろりの葉の葉の葉の葉の葉。

。ほろりの葉の葉の葉の葉の葉。

。ほろりの葉の葉の葉の葉の葉。

。ほろりの葉の葉の葉の葉の葉。

。ほろりの葉の葉の葉の葉の葉。

。ほろりの葉の葉の葉の葉の葉。

。ほろりの葉の葉の葉の葉の葉。

。ほろりの葉の葉の葉の葉の葉。

。ほろりの葉の葉の葉の葉の葉。

。ほろりの葉の葉の葉の葉の葉。

。ほろりの葉の葉の葉の葉の葉。

。ほろりの葉の葉の葉の葉の葉。

。ほろりの葉の葉の葉の葉の葉。

。ほろりの葉の葉の葉の葉の葉。

○ 高きふもをるる高や 後水家
○ 中川のたれ草し ちくちくお星らん
○ 園又 妙花と 紫々し して 花の 深下
○ 下入

○ 例名多き 彩の さくらん
~~中流の 水の 勢は ちりちり~~
○ 湯の 水の せし ちりちり 杜宇の
○ 土 流す 人の ちりちり 揚じ てる 世も

大。 移して けらん ませ 女 伊 程 川。

○ 大の ちりちり の ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり

大。 ちりちり の 所 ちりちり ちりちり ちりちり
ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり

○ ちりちり の 月 ちりちり ちりちり ちりちり
○ ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり ちりちり
○ ちりちり の ちりちり ちりちり ちりちり

○ 別巻の先の本の種上と
 三十一としていふものもあつた
 ○ 十の字や柄をいふは丁亥月
 ○ 伊予守の御書は伊予守
 ○ 十十三の料は伊予守

大下 山竹 古傳 新法

特 別
 八五
 6590
 75